

【一般演題1】 第4席

「曲直瀬家の灸法について」

神奈川 上田 善信

中国においては、前漢時代の馬王堆医書、あるいは隋唐時代の『千金方』などをみてもわかるように鍼灸治療では灸療に重きがおかれていた。

他方、日本近世以前においては現存最古の医書である『医心方』をみても明らかなように、鍼灸治療の中心は灸治療であった。また『日用灸法』のような灸法書がかなり流布している。

先に演者は『甲乙経』の灸法について解析したが、灸は陽気との関係が深く（施灸の壮数、部位と壮数）、また元明に至っても灸は陽気を強める重要な手法であった。

元明の医学の影響を受けて、近世日本の医学を体系づけたのが曲直瀬家である。その鍼灸治療における灸法を考察することは近世日本の鍼灸を考える上で重要なことと言わなくてはならない。このたびの報告においては、曲直瀬家の灸法を取り上げて江戸初期の鍼灸の様相を考察することにする。